ID
氏名

年齢
科名　　　　病棟

MEAM 療法

（自己末梢血幹細胞移植）

疾患名　　悪性リンパ腫

主治医　　　指導医

HBs 抗原（ ＋ － ） HBc 抗体（ ＋ － ） HCV 抗体（ ＋ － ）

スケジュール

		day-6	day-5	day-4	day-3	day-2	day-1	day0
サイメリン(ラニムスチン)	300 mg/m^2	↓						
エトポシド	200 mg/m^2 (100 mg/m^2/回×2)		↓	↓	↓	↓		
シタラビン	2000 mg/m^2				↓	↓		
アルケラン(メルファラン)	140 mg/m^2						↓	
自己末梢血幹細胞の輸注								↓

【注意】
＊ 1 日の尿量が 3000 mL 以上になるように化学療法開始前日より輸液を行う。
＊ エトポシドは溶解後結晶が析出するため、半分量ずつ調製する。
用時 100 ㎎を輸液 250mL 以上で溶解(濃度 0.4 ㎎/mL 以下の濃度になるように)し 30～60 分で点滴静注するのが望ましい。また DEHP フリー点滴セット(フィルターなし)を使用する。
＊ シタラビンの点滴時間は 2 時間を越えないように注意。
＊ 治療中は、ステロイド点眼を行う。
＊ メルファランは希釈後、経時的に安定性が低下するため 1.5 時間以内に投与を終了すること。
＊ メルファランは投与後 24 時間以上あけて、移植を行うこと。

☆通常量より減量する際の理由☆

(レジメン)

day -6

① 生食 500 mL にて血管確保　　維持（20 mL/時間）

② デキサメタゾン注 6.6mg（2 mL）＋ 生食 20 mL　　側管静注

③ サイメリン　＋ 生食 100 mL　　点滴静注 60 分（100 mL/時間）

day -5, -4

① 生食 500 mL にて血管確保　　維持（20 mL/時間）

② デキサメタゾン注 6.6mg（2 mL）＋ 生食 20 mL　　側管静注

③ エトポシド 1/2 量　＋ 5%ブドウ糖液 500 mL　　点滴静注 120 分（250 mL/時間）

　エトポシド 1/2 量　＋ 5%ブドウ糖液 500 mL　　点滴静注 120 分（250 mL/時間）

MEAM 療法

day -3, -2

① 生食 500 mL にて血管確保　維持（20 mL/時間）

② グラニセトロン注 3mg 1 筒　側管静注

③ デキサメタゾン注 9.9mg（3 mL）＋ 生食 20 mL　側管静注

④ エトポシド 1/2 量 ＋ 5%ブドウ糖液 500 mL　点滴静注 120 分（250 mL/時間）

エトポシド 1/2 量 ＋ 5%ブドウ糖液 500 mL　点滴静注 120 分（250 mL/時間）

④ シタラビン ＋ 生食 350 mL　点滴静注 120 分

＊生食 150 mL をバッグから前もって抜いておく

day -1

① 生食 500 mL にて血管確保　維持（20 mL/時間）

② グラニセトロン注 3mg 1 筒　側管静注

③ デキサメタゾン注 9.9mg（3 mL）＋ 生食 20 mL　側管静注

④ アルケラン ＋ 生食 250 mL　点滴静注 60 分（300 mL/時間）

day 0

① 生食 500 mL にて血管確保　維持（20 mL/時間）

② デキサメタゾン注 6.6mg（3 mL）＋ 生食 20 mL　側管静注

③ ハイドロコートン 100mg ＋ 生食 100 mL　点滴静注 60 分（100 mL/時間）

レスカルミン 1A　側管静注

④ 末梢血幹細胞の輸注

day 1

① 生食 500 mL にて血管確保　維持（20 mL/時間）

② デキサメタゾン注 6.6mg（3 mL）＋ 生食 20 mL　側管静注

MEAM 療法

	day -6	day -5	day -4	day -3	day -2	day -1	day 0	day 1
月日	／	／	／	／	／	／	／	
サイメリン 開始時刻	↓							
エトポシド 開始時刻		↓ ↓	↓ ↓	↓ ↓	↓ ↓			
シタラビン 開始時刻				↓	↓			
アルケラン 開始時刻						↓		
末梢血幹細胞輸注 開始時刻							↓	
確認								

＊投与開始時刻の記載を宜しくお願いします。
特に、アルケラン開始時刻は正確な時刻を宜しくお願いします。